

学校の先生へ

吃音症（どもり）について

吃音（きつおん）は、しゃべることばに連発（ぼ、ぼ、ぼ、ぼくは）、伸発（ぼーーーくは）、難発（……ぼくは）などが起きて、滑らかに発話できないことを指し、100人に1人は吃音があります。2011年に吃音のあるイギリスの王ジョージ6世の映画『英国王のスピーチ』がアカデミー賞を受賞したことで有名になりました。

吃音は、言語発達の盛んな2～4歳頃に発症するもので、原因はまだ特定されていません。吃音の治療法はまだ確立されていませんが、吃音によるいじめなどがなければ、年齢を重ねるにつれ、自然と軽減していくものです。精神的な弱さが吃音の原因と誤解されることがありますが、先生が精神的に強くしようとしても治すことはできません。吃音は最初のことばで発生することがほとんどであり、2人以上で声を合わせる（斉読）や歌では、吃音は消失します。

	連発 (最初のことばを くりかえす)	難発 (最初のことばが出るのに 時間かかる)
苦手な場面	本読み、発表、劇、健康観察、 日直、号令、自己紹介	
得意な場面	友だちとの会話、得意な話をするとき	
困ること	真似される、笑われる 「なんでそんな話し方 なの？」と聞かれる	「早く言いなさい」とせかされる 答え・漢字がわからない誤解される 一生懸命話そうとするが声がでない
先生が できること	① 吃音のからかいをやめさせる（少しの真似でも、傷つきます） クラスで吃音のからかいがあったら報告させる。 ② 話すのに時間がかかっても待つ。 ③ 話し方のアドバイスをしない（ゆっくり、深呼吸して、落ち着いて、 など）→効果がなく、逆にプレッシャーになります。 ④ 本読み、号令などの対応を本人と話す。	

吃音の説明ロールプレイ

先生「○○くんは、ことばを繰り返したり、
つまったりすることがあるけど、それを
真似したり、からかわないように。
もしマネする人がいたら、先生まで教えてね」
児童「なんで真似してはいけないのですか？」
先生「わざととしている訳ではないから」
児童「わかりました」

先生の一言が

非常に効果があり、
子どもは助かります。